

## 編集後記

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年問題。人類がかつて経験したことのない超超高齢化社会を迎えることになる。医療体制も地域包括ケアシステムが導入され、病院完結型から地域完結型への転換がはかられ、我々診療放射線技師を取り巻く環境も大きく変化することが考えられる。

今年度、青森市で開催された第7回東北放射線医療技術学会大会は、技術学会と技師会の合同開催となって東北地区(新潟県を含む)を一回りしたことになる。シンポジウムでは「放射線技術のラテラルシンキング -業務としての撮影テクニク-」と題して、日常業務を安心安全に行う工夫を5人の講師の方に講演していただいた。特別講演では、弘前大学名誉教授の岩崎先生に「ミスター放射線」と題して、ご自身の経験を元に診療放射線技師教育や研究に関する世界観を講演していただいた。新しい企画のソリューションカンファレンスでは、「ドーズ、システム、ワークフロー、セーフティ」の分野で、新しい視点から我々の日常業務に関する問題点が討論された。次回の学会大会でも継続していただきたい企画である。その他、一般研究発表、テクニカルミーティングやランチョンセミナー等、盛りだくさんな内容で開催され、後抄録として東北支部雑誌に掲載することができた。執筆していただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げる。また、学会大会に参加できなかった会員にも、この雑誌を通して情報提供できれば、幸いである。

平成30年度診療報酬改定作業が大詰めを迎えている。今回の改定では、診療放射線技師に関する部分は少ないと思われるが、2025年問題により医療費・社会保障費が増加し、それに反して診療報酬が抑制される中、医療の質を担保するために施設基準が見直されていく。今回のシンポジウムやソリューションカンファレンスで討論された内容から我々の業務を可視化し、施設基準に反映させることを目指す必要がある。そのことが、技術学会と技師会が合同で行う東北放射線医療技術学会大会の存在意義だと考える。

---

事務局	公益社団法人 日本放射線技術学会東北支部 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1番1号 東北大学病院 診療技術部放射線部門内
電話	022-717-7418
F A X	022-717-7430
発行人	坂本 博
発行日	平成 30 年 1 月 31 日

---

